

復 命 書

平成28年4月6日

日進市議会議長 近藤 ひろき 様

氏 名 大橋 ゆうすけ 印

出張期間

平成28年1月13日・14日
2日間

出張先

自衛隊守山駐屯地

参加者

・大橋ゆうすけ

用 務

・日進市立中学校
「職場体験学習」実施内容の視察

復命事項

別紙参照

※別添資料 あり

復 命 書
(行政視察報告書)

出張日
平成 28 年 1 月 13 日・14 日

出張先
自衛隊守山駐屯地

作成日
平成 28 年 4 月 6 日

作成者
日進市議会議員 大橋ゆうすけ

日 時：平成 28 年 1 月 13 日・14 日 水曜日 9:30～17:00
場 所：自衛隊森山駐屯地
目 的：日進市立中学校「職場体験学習」の内容調査
講 師：自衛隊愛知地方協力本部 瀬戸地域事務所 所長 吉永知儀 様

はじめに

この度、自衛隊「職場体験学習」の視察を行うこととなった経緯について説明いたします。平成 27 年 12 月日進市議会定例会において、共産党所属のごとうみき議員から日進市立中学校の「職場体験学習」についての質問がなされたことに始まります。

ごとう議員は、「自衛隊」の職場体験学習について執行部に対して追及をされていましたが、日本国憲法第 22 条に定められている「職業選択の自由」を妨害するものである感じたため、自衛隊で行われる「職場体験学習」の内容や現場での実態を調査・把握するため、自衛隊愛知地方協力本部瀬戸地域事務所へ視察の申し入れを行い、実施したものとなっております。

職場体験の基本的な考え方（文部科学省 HP 参照）

～職場体験の必要性～

職場体験には、生徒が直接働く人と接することにより、また、実際的な知識や技術・技能に触れることを通して、学ぶことの意義や働くことの意義を理解し、生きることの尊さを実感させることが求められています。また、生徒が主体的に進路を選択決定する態度や意志、意欲など培うことのできる教育活動として、重要な意味を持っています。

望ましい勤労観、職業観の育成や、自己の将来に夢や希望を抱き、その実現を目指す意欲の高揚を図る教育は、これまでも行われてきたところであるが、より一層大切になってきている。

職場体験は、こうした課題の解決に向けて、体験を重視した教育の改善・充実を図る取組の一環として大きな役割を担うものである。特に、生徒の進路意識の未成熟や勤労観、職業観の未発達が大きな課題となっている今日、生徒が実際的な知識や技術・技能に触れることを通して、学ぶことの意義を理解し主体的に進路を選択決定する態度や意志、意欲など、培うことのできる教育活動として重要な意味を持っている。

現行の中学校学習指導要領においては、体験的な学習や問題解決的な学習を重視している。

また、平成 11 年 12 月の中央教育審議会の答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」、及び平成 16 年 1 月「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」においても、小学校段階から発達課題に応じて「キャリア教育」を推進することが提言され、その一環として職場体験等の体験活動を促進することが重要であると指摘されている。

このような職業にかかわる体験は、ともすれば「働くこと」と疎遠になりがちであった学校教育の在り方を見直し、今、教育に求められている学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させる具体的な実践の場である。

特に、中学校における職場体験は、小学校での街探検、職場見学等から、高等学校でのインターンシップ等へと体験活動を系統的につなげていく意味において、重要な役割を持っている。

このため職場体験は、各学校において、事業所や地域との深い連携・協力関係のもとに、生きた学びの場を構築していくという観点に立って、幅広く導入していくことが強く望まれている。あわせて、小学校・中学校・高等学校等の連携を図っていくことも重要である。

～職場体験の意義～

1. 勤労観、職業観の育成の場

実際に仕事をしている人と接し、自分自身も体験することで、働くことの意義や目的の理解、進んで働こうとする意欲や態度などを育むことができる。職業の意義についての基本的な理解・認識、自己を価値あるものとする自覚、夢や希望を実現しようとする意欲的な態度など、望ましい勤労観、職業観を育むまたとない機会である。

2. 新たな自分を発見する場

生徒が自己の個性や適性を把握し自己理解を深めていく上で、様々な体験・経験を積み重ねることは、極めて重要である。自分が役立つ存在であることを知ることができたり、自己の新たな可能性を見い出したりする場合も少なくない。また、それぞれの職業の実像は、実際に仕事を体験し、働くことの厳しさや喜びなどを身をもって体験することを通して、生徒自らが体得していくものである。

3. コミュニケーション能力、社会的スキルを身に付け、人間関係の大切さを体得する場

職場体験は、そこで働いている多くの職業人との触れ合いや交流を通して、異世代とのコミュニケーション能力を高めるとともに、社会人としての基本的マナーや言葉遣いなどを身に付けることができる場でもある。核家族化や都市化が進む中で、異世代との交流が減少し、あいさつができない、言葉づかいを知らない、コミュニケーションがうまく図れないといった若者が増えているという指摘もあり、これが高い離職率の一因となっている場合も考えられる。コミュニケーション能力や社会的スキルを身に付ける上でも、職場体験の果たす役割は大きい。

4. 学校と社会をつなぐ場

生徒は、職場体験を通して、学校での学習が社会でなぜ大切なのか、どのように役立つのか、実際に仕事をしていく上でどのように用いられるのかを知ることができる。それは同時に、現在の学習と将来の職業生活との関係を理解し、目的を持って学習に取り組む上での重要な契機ともなる。「働くこと」から疎遠になりがちな今日の子どもたちにとって職場体験は、こうした現状を打開し、体験を通して学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感をもって理解していくという大きな役割がある。

5. 職業生活や社会生活に必要な知識、技術・技能を学ぶ場

生徒が職業で実際に用いられている知識、技術・技能を学ぶ貴重な機会である。また、実際に働いている人たちの生活ぶりを見聞きする絶好の機会でもある。

6. 教員の新たな資質・能力の形成の場

教員にとっては、産業界の動きや職場の実情、地域の現状についての認識を深めることができる。そのことから、生徒への適切な助言や生きた情報の提供等が行われるようになり、また、教員のコーディネート能力、カリキュラム開発能力等の向上、さらに、意識改革につながるが大いに期待できる。さらには、これまでには見られなかった生徒の姿やその変化を見たりすることによって、教員の生徒理解が一層深まるのである。

7. 親子の会話を促進する場

保護者にとっても子どもたちの働く姿は、その新たな側面を発見することになる。

また、働くということを通して、子どもとの会話を促進する機会にもなり、子どもは保護者との会話を通して、働くことの尊さや感謝の気持ちを持つことになろう。

8. 事業所、地域の理解と活性化を図る場

職場体験は、地域の産業やそこに働く人々の素晴らしさや大切さを発見する場合も多く、そのことが地元に対する愛着や誇りを持つことにつながる。また、自分自身に対する自信や可能性の発見と相まって、自己の拠って立つところ＝アイデンティティを形成していく上での大きな契機となっていく。さらに、地域が一体となって生徒を育てていこうとする気運が高まること、事業所も地域に貢献することができるなど、職場体験には広範な教育効果を期待することができる。

1月13日（火）の日程

9：50

守山駐屯地到着

10：00

準備運動・駆け足、職場体験概要説明、自衛隊概要説明、守山駐屯地内見学

12：00

昼食

13：00

ロープワーク、史料館見学

14：30

守山駐屯地出発

1月14日（水）の日程

9：50

守山駐屯地到着

10：00

準備運動・駆け足、基本教練

12：00

昼食（駐屯地食堂での体験喫茶）

13：00

基本教練・ロープワーク（錬成・錬度判定）

14：30

駐屯地出発

所感

私は、平成 27 年 1 月 13 日・14 日の二日間にわたり、日進市立日進中学生の「職場体験学習」の政務調査を行いました。また、自衛隊守山駐屯地内で実施された体験学習に同行させて頂き、共産党所属のごとうみき議員が平成 27 年 3 月定例会で行った一般質問の内容について実態把握と事実確認を行うと共に、参加していた生徒に参加の動機や感想を伺ってまいりましたので、その内容と合わせ所感を記載いたします。

先ず初めに、共産党所属のごとうみき議員が一般質問の中で述べられていた「自衛隊への勧誘」「戦闘のための体験」等は行われておりませんでした。

また、質問の中で「子ども達は自分ではっきりと判断できない」と言われておりましたが、守山駐屯地の職場体験学習に参加した生徒に動機を聞いたところ

- ・「将来自衛隊員になりたいと思っているから」
- ・「将来、人を助け、命を守るような仕事がしたいと思っているから」
- ・「アルバイトでは経験することが出来ないため、自分の見識を広げる為を選択した」などの思いを聞く事が出来ました。

さらに、体験後の子供達の感想を聞いたところ

- ・「ひとり一人が自衛官としての誇りをもって仕事に取り組んでいた」
- ・「自衛隊の中には様々な仕事があり面白い」
- ・「訓練や行動を見ていて、国を守る覚悟を感じた」
- ・「司令官の責任の重さを感じた」

など、各々が自分の考えをしっかりと持ち、選択し、参加し、自らの体験を通じて様々な事を感じとっています。こうした現実には、しっかりと大人が目を向けなければならない事であると強く感じました。

また、自衛隊に対し「このような所が職場と言えるのか」と言われておりましたが、自衛官は、**国家公務員法上、特別職の国家公務員**として位置付けられており、自衛隊法第三条では、自衛隊は、我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、直接侵略及び間接侵略に対し我が国を防衛することを主たる任務とし、必要に応じ、公共の秩序の維持に当たるものとする。となっています。

このように法律で認められた組織であり、私自身も政務調査を通じて、誇りと使命感を持った人材の集まる素晴らしい組織であることを実感いたしました。

日本国憲法第 22 条で「職業選択の自由を有する」とあり、子ども達にも保障された権利であります。私も三人の子どもを持つ一人の父親として思い、考えさせられる事があり、本当に子どもの事を思うなら、社会や仕事を知るためのきっかけを作り、今ある現実や事実を正しく視ること、その上で、自ら考え、自ら判断する力を養える環境を作る事が大人の役割だと改めて感じています。

一部の大人の勝手な都合で、希望や夢に満ちた子どもの将来や自主性を奪ってしまうような事が決しておこらないよう強く望むものであります。